

ミヤイリガイ (カタヤマガイ)

岡山県：絶滅

吸腔目

Oncomelania hupensis nosophora (Robson)

環境省：絶滅危惧Ⅰ類

イツマデガイ科

選定理由

過去に記録はあるが、その後生息環境が破壊されたため絶滅した。

存続を脅かす要因

その他（有害駆除）、河川開発、用水路改修、川相変化、土地造成、水質汚濁、農薬汚染、産地局限

分布状況

県内では井原市大江町～高屋町の高屋川流域にかつて生息し、ナナマキガイという方言で呼ばれていた。高屋川の下流には、日本住血吸虫症の大流行地（すなわちミヤイリガイの多産地）として著名であった広島県福山市神辺町川南（片山）が位置する。

県外では関東から九州北部にかけて不連続的に分布していたが、現在は山梨・静岡・千葉各県に僅かに生存しているのみである。

生息情報

殻長7mm、細長い塔型で、螺層は膨らみ、縫合は強く括れる。殻表は微細な成長脈以外はほぼ平滑で、光沢があり濃茶褐色、殻口外唇は著しく肥厚する。水田用水路や湿地など、緩い流水や止水環境において、水際の湿泥上や植物の根元などに生息する。日本住血吸虫の中間宿主となるため、1910～1960年代にかけて積極的に駆逐され、生石灰など「殺貝剤」の散布、焼却、用水路のコンクリート化など様々な「撲滅作戦」の結果、本種は国内のほとんどで滅ぼされてしまった。岡山県でも近年は確認されていない。

文献番号 27, 59

(福田 宏)



イナバマメタニシ

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

吸腔目

Bithynia inabai Habe

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

エゾマメタニシ科

選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限される。

存続を脅かす要因

池沼開発、用水路改修、湿地開発、土地造成、水質汚濁、農薬汚染、産地局限

分布状況

県内では鏡野町、津山市（旧久米町）、美咲町、久米南町、勝央町から記録されている。

県外での自然分布は兵庫県南部のみが知られる。神奈川県座間市からも報告されたが、移入と考えられている。

生息情報

殻長7mm、幅広い円錐形で薄質、淡茶褐色、螺層は強く膨らみ、縫合の括れも強い。臍孔は狭く開く。水田、用水路、溜池など浅く緩い流水や止水中の軟泥底に生息する。特に棚田など傾斜のある地形に形成された水田周辺に産地が集中している。冬季は湿泥中に潜って越冬する。用水路のコンクリート化や乾燥化などによって衰滅しつつある恐れがある。

文献番号 46, 47, 49, 76, 80, 117

(福田 宏)

